開催報告　教員セミナー「英語 4 技能 5 領域の育成と評価」

河合塾

2024 年 7 月 12 日　18：00～19:30

世界標準の英語力を評価できる検定試験「ケンブリッジ英語検定」を採択されている2校の先生をお迎えし、「英語 4 技能 5 領域の育成と評価」への取り組みについてご紹介いただきました。

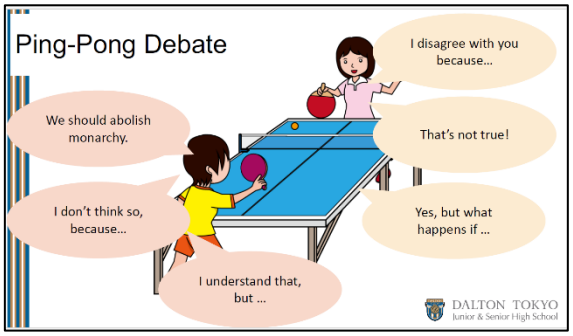
■講演１「自分の言葉で発信する～グローバルに活躍できるコミュニケーション力育成とは「英語コミュニケーション」の授業実践例を元に」

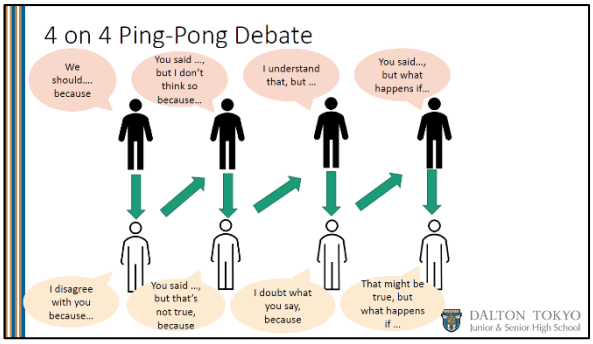
布村 奈緒子 先生（ドルトン東京学園中等部・高等部　副校長）

ドルトン東京学園　中等部･高等部は、「自由」と「協働」そして「学習者中心の学び」を教育の原理としています。これまで、前任校を含め 10 年以上前から英語のアクティブラーニング型授業に取り組まれ、成果を出されてきた布村先生。今回の講演では、コミュニケーション活動を重視した英語教育の重要性について、具体的な事例を交えてお話しいただきました。

英語教育においては、授業をコミュニケーションの場とすることが重要と考えており、日々の授業で言語活動や情報交換を重視し、生徒が実際に言葉を使ってやり取りする機会を設けています。

一つ目の具体例は、生徒同士のロールプレイです。通常のスクリプトを読む形式ではなく、即興で話すことを重視しています。授業の冒頭で、話し合うテーマに関する既存の知識と新しい情報を結びつけるウォームアップを行います。次に具体的なシチュエーションを設定、生徒が異なる立場から意見を述べてディベートをする形のロールプレイを行うことで、論理的に意見を述べる練習をしています。





二つ目の具体例はディベートです。フォーマルなディベートではなく、カジュアルな形式でディベートを行うことで、生徒は発言しやすくなり、英語でのやり取りに慣れていきます。最終的に、ディベートで話した内容をライティングなどまとめることで、生徒の英語力を総合的に向上させることをめざしています。

AI の活用について、例えば、AI の助けを借りることで「繰り返しの書き直し」が可能となり、教師と生徒のやり取りが効率化されます。その一方で、AI に過度に依存しすぎるリスクもあります。
ドルトン東京学園では、ライティングではなく「スピーチ」を最終ゴールとすることで、生徒たちの意欲を引き出すことができると感じています。

本校ではケンブリッジ英語検定を中学校１年生から高校３年生まで受検しています。ケンブリッジ英語検定は、Pre A1 レベルからスピーキングの評価があること、技能ごとのスコアが出る為、客観的に弱点や強みが把握でき、生徒がさらなる学習意欲を持つことができると感じています。

また「評価」について、観点別評価が高等学校にも導入され、定期考査やパフォーマンステストなど、様々な評価の場面が重要になってきています。例えば、ライティングのルーブリックを活用することで、表現の部分もしっかり評価し、生徒たちがたくさん書くことに意欲を持つようになります。また、プレゼンテーションの評価では、文法や語彙の正確性と同様に、アイコンタクトや声の大きさなどを重視するルーブリックを作成することで、生徒たちが自信を持って発表できるようになります。

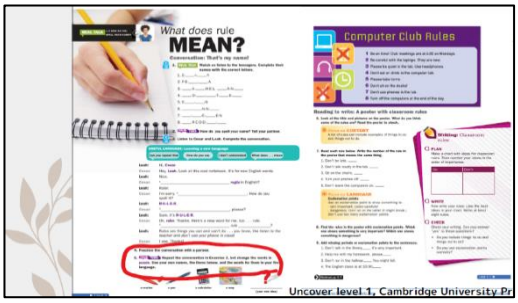
講演の最後に、スピーチコンテストに参加した生徒たちの様子を紹介、何度も練習を重ねた結果、全国大会で優勝するまでに成長したことを示されました。また、ドルトン東京学園ではこれらの教育方法を通じて、生徒たちが英語を使って自分の意見を発信し、論理的に考える力を養うことをめざしているとのお話で締めくくられました。

■講演２「ケンブリッジメソッドを用いたオールイングリッシュの授業実践」

鈴木 優子 先生（高槻中学・高等学校）

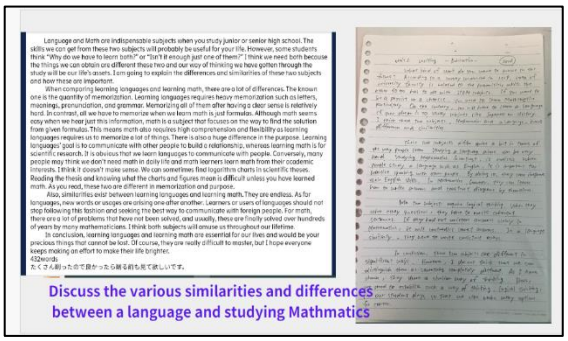
高槻中学校・高等学校は、ケンブリッジ大学が開発する英語カリキュラムを採用しており、オールイングリッシュの授業を実施しています。同校はケンブリッジ英語カリキュラムで使用する教科書発行元である「Cambridge University Press」の厳しい基準を満たした「Better Learning Partner」として日本の中学校・高等学校で初めて認定されました。日本でこの取り組みを行っているのは２校だけで、講演の最初に具体的な授業内容について紹介されました。

授業は英語のみで行われ、ケンブリッジのテキストを使用し、文法や読解の学習順番も従来のものとは異なります。導入当初は先生方の中でもとまどいがあり、大学入試対応や英会話の授業の効果についての心配が寄せられたとのこと。ケンブリッジのトレーナーからは「生徒中心の学び」「生徒が安心して学べる学習環境」「楽しい時間を持つこと」の重要性を教えられたそうです。



授業開始当初の模試結果は芳しくなく、悩みながらも、「答えのない問いに対するアプローチが重要であり、生徒自身が答えを見つける力を養うこと」を追求していきました。授業はケンブリッジのオールイングリッシュのテキストを使用し、中学1年生からスタートしましたが、コロナ禍でオンライン授業が中心であったため、進め方に大変苦労されたそうです。しかし「授業で全てを教えなければならない」という固定概念にとらわれず、生徒たちが自ら学ぶ姿勢を促すよう工夫して授業を続けられました。

さらに具体的な授業例として、テキストを読んでタスクを達成し、ディスカッションや作文を行う活動が紹介されました。
生徒たちは 400 字程度の英文を書き、グループ内で読み合わせや発表を行い、手直しをして完成させます。
ケンブリッジのテキストはリーディング、グラマー、リスニング、アウトプットの流れで構成されており、生徒たちは多様な視点から考える力を養っています。

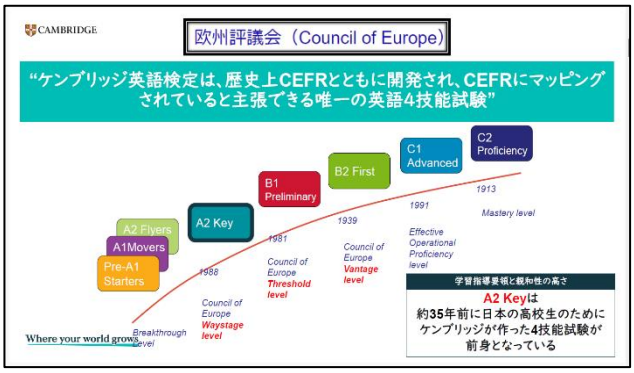


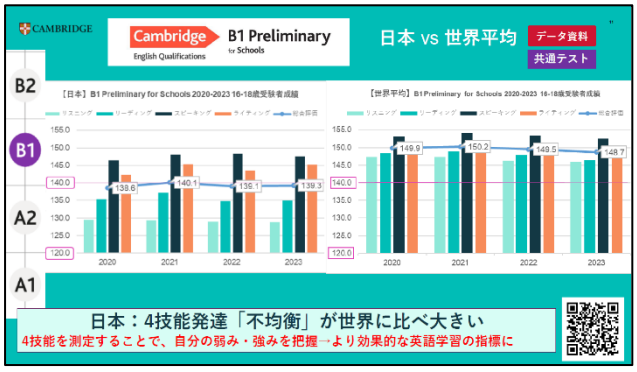
また、同校では中学 2 年生と高校 1 年生でケンブリッジ英語検定を実施しており、英語の成績向上をめざしています。
導入後の成績結果は良好で、特にリスニング能力は非常に高いレベルです。

授業のテスト問題は全て英語で出題され、語彙問題や並べ替え問題、要約問題、作文、リスニングなど多岐にわたります。ケンブリッジメソッドに基づく教育方法により、生徒たちは実践的な英語力を身に付けているとのことで、中には、中学入学時は特に英語が得意でなかった生徒が、ハーバード大学の英語研修でスピーチを流暢に行うなど、目を見張る成果も出ているとのことです。

鈴木先生は教育の本質について「教えるだけでなく生徒の力を引き出すことの重要性」を強調されました。先生自身も多くの失敗を経て生徒たちと共に成長してこられたとのことです。講演の最後にはウォルト・ディズニーの言葉を引用、イマジネーションを忘れずに成長し続けることの大切さを述べられました。

最後に、青山　智恵氏（Solution Development Consultant, Cambridge University Press & Assessment）から、ケンブリッジ英語検定が CEFR とともに開発され、CEFR とマッピングできる唯一の英語4技能試験であることが、歴史的経緯とともに紹介されました。また、世界中に受検者がいるケンブリッジ英語検定だからこそできる、成績の国際比較は非常に興味深いデータでした。





参加された先生方の声（アンケートより・一部抜粋）

■講演１（布村先生）について

・ロールプレイで自分ごととして話させるために、本物の題材を使う点に、なるほどと思いました。また、AI翻訳から、自分の使いたい表現を選ぶ、という点がとても気に入りました。

・ディベートの事例やライティングで止めずにスピーキングをゴールにするパフォーマンス活動などをお聞きして、自校への取り入れ方を考えてみたいと思いました。

・AI を使ったライティングについて、翻訳アプリをすぐに使う生徒が増えたことを悩んでいましたが、先生の講演を聞いて目からウロコでした。様々なツールを上手く利用して可視化していく方法に感動しました。

■講演２（鈴木先生）について

・ライティングの指導で、AI を使う前の first draft と使用後の final draft を提出させるのがいいなと思いました。生徒自身も、必ず見直し、比較するでしょうから、いい input になると確信しました。

・ユーモア交えるとても分かりやすい内容に奮い立たされました。英語を使うことをゴールに授業を組み立てなおします。

・生徒中心の英語で行う授業は、理想ではあるもののなかなかできていません。先生の学び実践されている姿勢にとても共感しました。2 学期からの授業の構成を改めて組み直して考えようと思いました。

■セミナー全体について

・テキストそのものを変えるのは実現しないと思いますが、通常の検定教科書でもまだまだ使い切れていない部分があるなと感じました。参考にしていきたいです。

・最先端の実践をされている先生方の講演は大変貴重で参考になりました。

・大変、勇気とヒントを頂きました。ありがとうございました。

ケンブリッジ英語検定のご案内

◆英国ケンブリッジ大学の傘下にあるケンブリッジ大学英語検定機構（Cambridge Assessment English）が開発・実施

◆100 年以上の歴史があり、世界 130 カ国・年間約 250 万人が受検

◆世界基準での公平性と質の高さ⇒TIMES 誌「世界大学ランキング TOP100」の 98%が同機構のアセスメント（ケンブリッジ英語検定、IELTS 等）を認定

◆学習段階に合わせて PreA1～C2 のレベル選択可

◆コミュニケーション重視の対面ペア型スピーキング試験（全員受検）

●ケンブリッジ英語検定は学校を会場として、一括でご受検いただけます。
●当日の試験運営は河合塾が請け負いますので、先生のご負担を軽減できます。
●A2・B1レベルの試験日は原則、自由にご選択いただけます。ご相談ください。
●お問い合わせは河合塾営業部の貴校担当、または下記までご連絡をお願いいたします。

河合塾ケンブリッジ英語検定事務局
TEL:03-6811-5520（平日9:00～17：00　土日祝休み）
Mail: cambridge-jp026@kawai-juku.ac.jp

◀ お問い合わせはこちらから